高山・市民の森　森林教室実施報告書

「森林の観察散策と草木染め」

１　実施日時　　平成２８年１１月１３日（日）　１０時～１４時半

２　参加講師名　　森林インストラクターしずおか
　　担当者　　：　越智寿美子、高橋健三
　　アシスト会員：　青野ダイチ、井上俊、内野則夫、大石正教、小嶋博、
　　杉山雅章、早川和男

３　参加者　　１１家族３６人　（大人　１８人、こども　１８人）

４　概要

好天に恵まれ、応募者38名に対して参加者36名という高参加率でした。9時半から「森の恵」で受付、挨拶、ストレッチをし、４班に班分けした後10時30分頃各班で選択したコースで自然観察ウオーキングに出発しました。風も殆どなく気持ちのいい散策ができ、参加者には十分に楽しんでもらえたようでした。12時頃に「森の恵」に帰着、草木染めの作業に入り、染液に加熱含侵状態にして昼食をとりました。13時半頃に仕上がり、展示乾燥しました。参加者の皆さんからは鮮やかな染具合に驚きや、感動の声もあがり、昔からの自然の材料を利用したもの作りを体験できてうれしそうでした。イベントのまとめ、次回の紹介などを行って14時過ぎ解散としました。

以下に各班の自然観察ウオーキング様子と草木染めのまとめを記します。

第１班

２家族小さなお子様が多く、頂上を目指すか、近回りを散策するか聞いてみましたら、お子様たちから「富士山が見られるなら頂上まで頑張る」という意見が圧倒的でした。富士山は雲に隠れてしまうかもしれないけど、とにかく行ってみようということになりました。余裕をもって、ゆったりと頂上を目指しました。頂上の展望台から見た富士山は皆さん感動ものだったようで、頑張った結果の達成感を全身で表してくれました。帰りのお子様たちは元気を富士山から貰い、意気揚々と下山して、予定した時間より少し早く草木染めにチャレンジすることになりました。めずらしくなった、センブリの花を見ましたが、薬になること知っている人は多くはいませんでした。ヒイラギの白くかわいい花を見て、そしていい匂いを嗅ぎました。めずらしと　皆さん強い関心を示しました。

ミズキの枝を折り、はっきり見える白い維管束を見て、びっくりしていました。子供達は冬いちごを紹介したら、強い興味を示し、競って取り合っていました。

第２班

６名の元気な子どもたちのいるグループで２歳児以外の子は頂上までしっかり歩きました。途中、ある小学１年生の女の子がカエデの葉を指して『葉っぱが秋色になっている。』と言ったので『それではなぜ秋色と緑の部分があるの？』など子どもたちや親に質問したりしながら登って

いきました。その子は虫や木の名前もよく知っていてどこで覚えたのかなと、父親に聞くと高山森林教室で覚えたとのこと、クロモジは鉛筆づくりで覚えたとのこと、我々の案内が役立っていると嬉しくなりました。同時に間違ったことは教えられないと、身の引き締まる思いでもありました。また、付き添いの親たちには整備された森林の姿について説明し間伐の大切さを理解してもらいました。

頂上からの富士の勇壮や静岡の街並みや少し霞のかかった水平線などの景色に堪能して森の恵みに帰りました。帰り道でもザトウムシが人気で捕まえたり観察したりしていました。

第３班

カエデやクマシデの種子を飛ばして遊ぶ。今度は、モチノキの赤い実を誰が食べるのか考えてみた。なぜ、種子は飛んでいくのか？なぜ食べさせるのか？それは、できるだけ親から離れた安全な場所で芽生えるため生き残るため。子どもは「親のそばがいいのに。」と思ったはずである。ナメコのホダ場でナメコを触ってねっとり感を味わう。サルはこれが嫌いでナメコは食べないんだ。理解してくれたかな？

今日は晴天、山頂を目指した。途中、ミツマタやクロモジ、オニグルミ、ホウノキなどの冬芽を観察、ガマズミの実を試食した。酸っぱく子どもには不人気であった。果実酒にするとおいしいんだよ。初参加の家族のため、クロモジやダンコウバイ、ヤマコウバシなどの香りや感触など体験重視で行ったがツタウルシ、ミヤマシキミなど毒性のある植物を覚えてもらうよう説明を行った。また、リピータの子どもと初参加の子どもとが仲良く観察できるよう、両者に話しかけるような説明を心掛けた。

第４班

２家族６人とインストラクター1 人の小グループで、まとまりよく散策できた。いつものことだが、針葉樹林と広葉樹林の見た目の違い、ヒノキやスギの葉の形、クサギ、クロモジ、ヒノキなどの匂い、ガマズミの実の味等々、できるだけ５感を使った観察・体験をしてもらうように心がけた。

草木染め

今回は、クサギの実、ドングリ（クヌギ、マテバシイ、スダジイ等）、タマネギの皮、アカネの根を染料として、木綿のスカーフに染めた。染色法は、草木を煮出した液に媒染剤を加えて染色するという、簡易な方法を用いた。

午前中、参加者が高山を散策している間に、インストラクター2 名が残り染液の準備を行った。散策から戻った 12 時頃から布の準備をして、染液に入れ加熱した。1 時半ごろから仕上げ作業を行った。

簡易法で、時間も短かったが、その割にはどれもよく染まった。タマネギの皮は黄色、どんぐりは渋い茶に染まったが、参加者の人気は、クサギの青やアカネの赤に集中した。今回は、会員が採取した草木を使用したため、アカネ等は十分の量が用意できなかった。今後また行う場合は、市販のものを利用する等、人気の材料の入手法を検討したい。

（記録まとめ：　高橋）

散策の様子

草木染めの様子